

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付：2024年4月15日

事業ID： 2202400662

事業名：栃木県那須塩原市における「子ども

団体名：一般社団法人 AppleBase

代表者名：代表理事 磯 翔

TEL：080-5521-03948

事業完了日：2024年3月31日



■契約時

事業費総額	:	12,800,000 円
自己負担額	:	0 円
助成金額	:	12,800,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	13,635,845 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	835,845 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	12,800,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1. 事業内容

助成契約書記載の事業内容（予定）と、事業完了時の事業内容（実績）を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1) 助成契約書記載の事業内容（予定）

1. 栃木県那須塩原市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの解説（備品購入）
(1) 物件状況：団体所有物件（工事中、2023年2月竣工予定）
(2) 取得形態：土地は賃貸借契約
(3) 内容：備品・家電購入など
(4) 施設名称：AppleKids House
(5) 面積：総面積約102m²
(6) 後続：木造
(7) 施設概要：食事・交流・学習スペースなど

(2) 事業完了時の事業内容（実績）

1. 栃木県那須塩原市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの解説（備品購入）
(1) 物件状況：団体所有物件（2023年2月竣工）
(2) 取得形態：土地は賃貸借契約
(3) 内容：備品・家電購入など
(4) 施設名称：AppleKids House
(5) 面積：総面積約102m²
(6) 後続：木造
(7) 施設概要：食事・交流・学習スペースなど

(3) 成功したこととその要因

建物が完成したことで、活動の周知がより広まった。狭い仮拠点での運営と違い、過ごし方に幅が出たため落ち着いて過ごすことができるようになった。

(4) 失敗したこととその要因

コロナ禍における影響で竣工が大幅に遅れ、年間行事やイベントなどを中止、変更せざるをえなくなった。また、工事代金が大幅に上がり、購入品や運営に大きな影響を及ぼした。

(5) 事業内容詳細

建物ができたことで、近隣の住民や両サイドに隣接する幼稚園、保育園の保護者が覗きにきてくれ、卒園した児童が利用するなどの建物があることでリーチできた児童がいた。また入浴施設は困窮家庭の児童に大変喜ばれ、行政の支援を拒否していた保護者と信頼関係を構築したことで行政支援を開始することができた。

■事業内容2

(1) 契約時の事業内容

2. 栃木県那須塩原市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1) 期間：2023年4月1日～2024年3月31日（週5日、14時から20時まで開所）
(2) 場所：栃木県那須塩原市
(3) 対象：25名（家庭や自身に抱えた小中学生を中心）
(4) 内容：子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。



(2) 事業内容の実施(完了)状況

2. 栃木県那須塩原市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1) 期間：2023年4月1日～2024年3月31日（週5日、14時から20時まで開所）
(2) 場所：栃木県那須塩原市
(3) 対象：25名（家庭や自身に抱えた小中学生を中心）
(4) 内容：子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。

(3) 成功したこととその要因

予想以上の反響で口コミだけで利用登録者が大幅に増えた。施設を「かわいそうな子供が利用する場所」という認識を持ってもらわないためにも、明るく、楽しい雰囲気を全面に押し出すことができた。良い意味で児童施設らしくなく、大人の真似事や格好つけてすごせるようハイテーブルやシックな雰囲気の部屋にしたことも、落ち着いて過ごせる要因となった。

(4) 失敗したこととその要因

連携の大切さを痛感した。他施設で支援を受けていることを知らず当施設で受け入れた児童が別施設で支援を受けていたが、知らずに支援を行っていたところ、入所して数ヶ月で前述の事実が発覚した。

(5) 事業内容詳細

夏祭りやお泊まり会など、短時間だけでなく準備や長時間共に児童と過ごせたことは、非常に良かった。普段話さないことや悩みの相談は、長時間共に過ごした信頼関係の構築されたスタッフならではの感じる。地域のボランティアの方も積極的に関わりを持とうと進言してくれたが、そうした対応の団体のノウハウも向上した。

■事業内容3

(1) 契約時の事業内容



(2) 事業内容の実施(完了)状況

(3) 成功したこととその要因

(4) 失敗したこととその要因


(5) 事業内容詳細

■事業内容4

(1) 契約時の事業内容



(2) 事業内容の実施(完了)状況

		
--	---	--

(3) 成功したこととその要因

--

(4) 失敗したこととその要因

--

(5) 事業内容詳細

--

2. 契約時事業目標の達成状況：

(1) 助成契約書記載の目標

<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・2024年3月31日までにの一日平均利用児童数を10名にする・ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供 ・子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に12回実施する ・拠点利用児童が増加し、またその家族にも良い支援を実施できる、母親の悩み相談から問題や支援の方法を考え、地域施設等の連携につなげる

(2) 目標の達成状況 [700文字以内]

入力文字数	287	文字数チェック	OK
<p>・1日の平均利用児童数について行政や地域との連携、情報交換会へ参加しながら利用児童数を伸ばすことができ、1日平均10名を超えることができた。</p> <p>・地域のイベントやボランティアに参加させていただき、季節のイベントなども開催した。地域の方々と多世代交流の場を提供するとともにイベントや交流を通して地域住民との関係性の構築をする機会を設けることができた。</p> <p>・保護者がいつでも相談できる窓口や定期的にコミュニティの場を設けることができた。母親からの悩み相談から適切な情報提供や、必要な連携先への情報提供を行った。しかしながら情報提供後の後追いはできず連携先への確認までは取れなかった。</p>			

3. 事業実施によって得られた成果

2024年8月頃には登録児童数が100人を超えると見込まれる。
2024年10月には一般家庭児童と困窮家庭児童が8：2の割合になると見込まれる。
2025年4月には地域の幅広い児童の受け入れ先と認知され、行政や関連施設との連携が強化され、「困ったときはAppleBase」がある、と認識してもらえる施設となる。

4. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

地域のニーズに応えるために、保護者や家族が利用しやすい支援体制を構築することが重要であると感じた。具体的には、保護者や家族が自分たちのニーズや要求を伝えやすい場を提供し、それに基づいて支援を柔軟に調整していくことが求められる。また、地域コミュニティや学校との連携を強化し、情報共有や相互支援の仕組みを整えていく必要があると考える。これにより、より包括的かつ効果的な支援体制を構築し、地域全体の支援の質を向上させることが可能であると考えている。

5. 事業成果物

(1) 助成契約書記載の成果物名称

完了報告書

(2) 事業完了時の成果物名称

完了報告書



(3) 未作成となった要因

(4) 成果物を登録したウェブサイトのURL